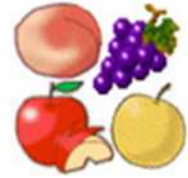




# 令和6年度 果樹情報 第15号

(令和6年10月17日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (10月前半、果樹研究所)

平均気温は、第1半旬が20.9℃で平年より3.1℃高く、第2半旬が17.1℃で平年より0.9℃高く、第3半旬が16.6℃で平年より0.7℃高く経過しました。

この期間の降水量は63.5mmで平年比102%と平年並でした。日照時間は69.8時間で平年比91%と平年並でした。

## 2 土壌水分 (10月15日現在、果樹研究所)

10月15日時点の土壌水分 (pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水) は、深さ20cmで2.0、深さ40cmで1.9、深さ60cmで1.8となっており、適湿状態です (図1)。

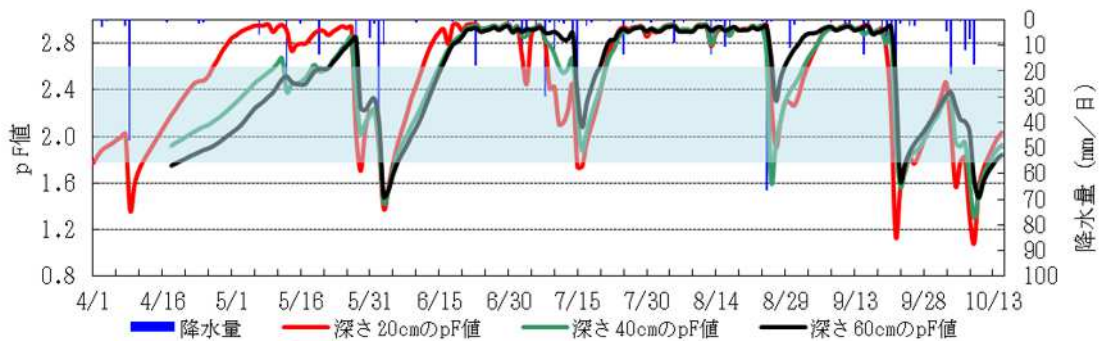


図1 土壌 pF 値の推移 (果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲 (pF1.8-2.6)

## 3 発育状況 (10月15日現在、果樹研究所)

### (1) りんご

#### ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径が84.3mm (平年比103%)、横径が89.5mm (平年比100%)と平年並の状況です。

満開後日数で比較すると、平年並となっています。

#### イ 成熟状況

「ふじ」の満開後169日 (10月8日)における成熟調査の結果は、果実硬度が13.0ポンドと平年よりやや低く、糖度は13.9° Brixで平年並、リンゴ酸含量は0.39mg/100mlで平年並、デンプン指数が3.8と平年並となっています (図2、3)。果皮中クロロフィル含量及び果皮中アントシアニン含量は平年よりかなり低い状況です (図4、5)。

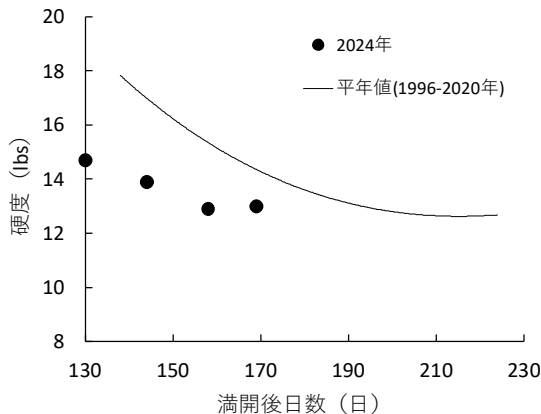


図2 「ふじ」の果実硬度の推移

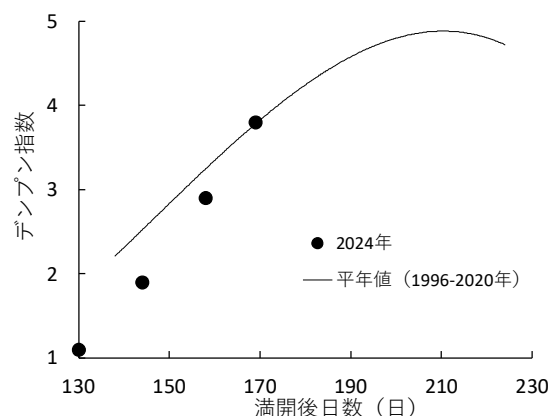


図3 「ふじ」のデンプン指数の推移

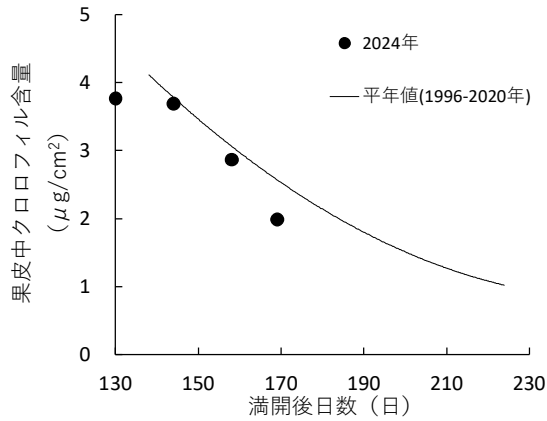


図4 「ふじ」の果皮中クロロフィル含量の推移

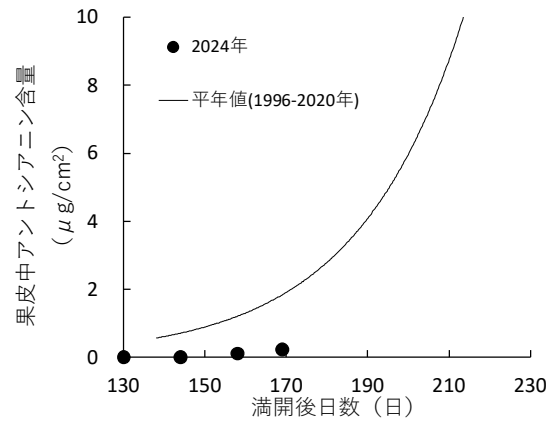


図5 「ふじ」の果皮中アントシアニン含量の推移

### ウ 「ふじ」の裂果発生状況

満開後 169 日（10 月 8 日）における「ふじ」／マルバ台果実の外部裂果率は 0 %、内部裂果発生率は 10.0 %といずれも過去 3 年間と比較して少ない傾向でした（表 1）。

表 1 りんご「ふじ」の裂果発生状況（満開後 170 日ころ）

調査樹	樹齢	外部裂果率 (%)				内部裂果発生率 (%)			
		2024	2023	2022	2021	2024	2023	2022	2021
ふじ/マルバ台	22	0	3.3	23.3	16.7	10.0	23.3	50.0	40.0

## (2) ぶどう

### ア 収穫状況

「シャインマスカット」の収穫盛期は 9 月 24 日で平年より 1 日早く、昨年より 5 日早くなりました（表 2）。

果実品質は、糖度が 17.9° Brix で平年並、酒石酸含量が 0.34 mg/100ml で平年より高く、糖酸比が低い状況でした（表 3）。

表 2 ぶどうの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あづましずく	7/31	8/15	8/8	8/5	8/18	8/10	8/5	8/21	8/10
巨峰（無核栽培）	8/22	9/6	8/22	8/29	9/9	8/29	9/2	9/15	9/7
高尾	8/29	9/9	8/30	9/4	9/14	9/7	9/4	9/17	9/7
シャインマスカット	9/17	9/15	9/13	9/24	9/25	9/29	10/3	10/8	10/3

注) 平年値は「あづましずく」は 2004～2020 年、「巨峰（無核栽培）」は 1998～2020 年、「高尾」は 1991～2020 年、「シャインマスカット」は 2009～2020 年の平均

表 3 ぶどうの果実品質

栽培方法	果皮色 (カラーチャート値)			糖度 (° Brix)			酒石酸 (g/100ml)			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
あづましずく	8.9	8.9	8.5	18.7	17.9	18.6	0.43	0.52	0.41	43.2	35.5	45.0
巨峰（無核栽培）	8.2	9.5	8.4	17.7	16.5	16.5	0.48	0.52	0.46	36.5	33.1	35.5
高尾	9.6	10.0	9.6	20.1	19.1	19.8	0.45	0.48	0.41	44.8	40.9	48.0
シャインマスカット	2.9	2.9	3.2	17.9	18.2	18.5	0.34	0.22	0.22	52.1	63.7	84.1

注) 平年値は「あづましずく」は 2004～2020 年、「巨峰（無核栽培）」は 1998～2020 年、「高尾」は 1991～2020 年、「シャインマスカット」は 2009～2020 年の平均

#### 4 栽培上の留意点

##### (1) りんご

###### ア 「ふじ」の収穫前管理

樹冠内部が混み合うような場合には、反射シートに光が差す程度に徒長枝の間引きを行います。

摘葉、玉回しは遅れないように計画的に実施しましょう。その際に、日焼け果等の傷害果は、選果基準に従って適切に処理しましょう。

###### イ 「王林」の収穫

未熟果（緑色果）を収穫すると食味が劣るため、果面全体に果点が浮き上がってきた果実から2～3回に分けて収穫しましょう。収穫適期は、果皮色が全体に黄色味を帯び、がくあ部付近にやや緑色が残っている状態の時です。果面から緑色が消えた果実は貯蔵性が低くなるため、収穫が遅れないように注意しましょう。

###### ウ 「ふじ」の収穫

収穫に当たっては、蜜入りの状態に加えて、果実の着色、地色及び食味等により総合的に判断しましょう。

#### 5 病害虫防除上の留意点

##### (1) 病害

###### ア モモせん孔細菌病

秋季の降雨により、新梢葉での発病が増加している状況が見られます。本病は秋期に降水量が多いと翌春に春型枝病斑の発生が多くなる傾向にあるため、収穫が終了した園では降雨前の秋期防除を徹底し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

3回目の防除を実施していない場合には、薬剤は4-12式ボルドー液、又はI Cボルドー412を30倍で使用するか、クレフノンを100倍で加用してコサイド3000を2,000倍で、又はクレフノンを100倍で加用してムッシュボルドーDFを500倍で使用しましょう。

###### イ ナシ黒星病

秋期防除は、翌年の伝染源となるりん片への感染予防に重要です。重要な防除時期は、りん片生組織の露出（図6）が多くなる頃（果樹研究所では10月上旬～11月上旬）となります（図7）

（参考：令和4年度普及に移しうる成果（<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>））。薬剤散布は、オーソサイド水和剤80を600倍で使用し、2週間間隔で2～3回散布（キャプタンの総使用回数に注意）し、最終散布は落葉率80%頃を目安に実施します。

また、薬剤散布は降雨前の実施を心がけ、薬液が棚上まで十分量かかるよう丁寧に行いましょう。なお、10月11日時点の果樹研究所「幸水」予備枝におけるりん片生組織の露出芽率は13.7%で、例年よりやや少ない状況となっています。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。2回目以降の散布では、薬剤のかかり具合を確認し、新梢管理を見直しましょう。



図6 露出した芽りん片生組織（枠内）

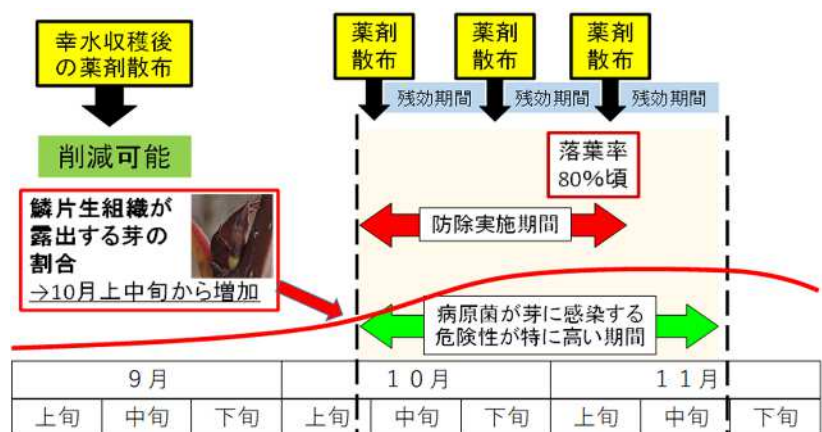


図7 なし及び病原菌の生態に基づく秋期防除の考え方

## (2) 虫害

### ア 果樹カメムシ類

病害虫防除所による9月中旬の発生調査では、9月に入ってから誘殺が急増した地点があるため、山沿いの園地では今後飛来が増えるおそれがあります。ほ場への飛来状況を確認し、多数の飛来が確認された場合は薬剤散布を実施してください（9月18日付けフェロモントラップデータ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/pheromonetrapp-2024.html>）。

なお、中通りではツヤアオカメムシの発生が確認されています（図8）。伊達地域の一部のリンゴ園地では、多数の飛来が確認されていることから、今後の発生に注意しましょう。



図8 ツヤアオカメムシ  
(写真提供：果樹研究所)

### イ ハスモンヨトウ

病害虫防除所の野菜調査ほ場における10月上旬の発生調査では、発生ほ場割合が平年より多い状況です（令和6年10月11日付け令和6年度病害虫発生予察情報予報第10号）。果樹では、昨年に続き葉の食害（りんご、ぶどう）が確認され、りんごでは果実被害も確認されています。

今後も発生が続くことが懸念されるので、園地をよく確認して早期発見に努めましょう。被害拡大を防止するためには、若齢幼虫期（ふ化後に分散する前）に捕殺することが有効です（図9、10）。



図9 ハスモンヨトウの終齢幼虫  
(写真提供：病害虫防除所)



図10 ハスモンヨトウのふ化直後の若齢幼虫（中央は卵塊）葉はいちご  
(写真提供：病害虫防除所)

### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>